

10月9日 マルコによる福音書 14章 26～42節 今日の説教から
説教題：「肉体の弱い私たち」

本日の礼拝は「逝去者記念礼拝」として、私たちの信仰の先達である兄弟姉妹を記念し、先達がこの江刺教会を作り上げ、江刺教会をこの時まで支えてきてくれたことに感謝をし、私たちが受け取ったバトンを次の世代へと渡す、その決意を強める礼拝を守っています。

私たちは「過去」に紡がれた御言葉が、「今」を生きる私たちにかけていると日々の礼拝を通じて学ぶことが出来ています。例えば、今日の聖書箇所ではペテロたち弟子の躓きがイエス様によって予告され、それに対して「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と堅い信仰を誓う姿が記されています。しかし、殉教さえ覚悟をしていたペテロの結末は、皆様ご存じの通りであります。同じマルコ福音書の14章で、イエス様が逮捕された時に逃げ出してしまう、その後周囲の人々に詰め寄られたペテロは「呪いの言葉さえ口にしながら、『あなたがたの言っているそんな人は知らない』と誓い始めた」のです。「心は燃えても、肉体は弱い」と言われてしまうペテロに、しかしイエス様は「わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く」と呼びかけていて、弟子たちと伝道をはじめたあのガリラヤから、また伝道への歩みを始めてほしいという思いをも託しているのです。弟子達には、未来の躓きと共に、未来での再会の希望が与えられていました。

そして、私たちはこの逝去者記念礼拝を通じて、この御言葉が私たちの「今」を超えて「未来」にも向けて語られていることを知るのです。いま、私たちはすぐ先の未来をも見通すことが出来ない、暗闇の時代を生きております。病による災いも、戦争による災いも、私たちの目の前で「死の臭い」を漂わせながら、いつ訪れるか分からない恐ろしさの気配に怯えながら私たちは今を生きています。ただ、よく考えれば、どの時代も別に晴れ渡った快晴の中で生きてきたわけでもないのです。なんでもイエス様に聞くことが出来た弟子たちでさえ、イエス様の言葉をなかなか理解できませんでした。その後の2000年間も、私たちはイエス様の言葉を、頭を悩ませながら探り続けています。500年前の宗教改革を経て、数十年前の大戦争を経て、10数年前の大地震を超えて、それでも私たちは、私たちの教会は今ここに、たしかに「ある」のです。それぞれの時代で、多くの人が「もう駄目だ」「暗闇の時代だ」と嘆いてきたことでしょう。しかし、それを乗り越えて、私たちにこの命が与えられているという事、この地に教会が確かにあるという事は、私たちにとって未来が明るいことの何よりの証しではないでしょうか。

私たちの過去を支えてくれた先達によって、私たちの未来が希望にあふれていることが示されているのです。その希望を支えてくれているのは、間違いなく私たちの神さまなのです。すべての時代において、すべての場所においてこの世に愛を示し続けてくれている、その神様の愛を感じながら、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 14 章 26～42 節

- 26:一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散ってしまう』／と書いてあるからだ。しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」するとペトロが、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った。イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」ペトロは力を込めて言い張った。「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」皆の者も同じように言った。
- 32:一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、こう言われた。「アツバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」それから、戻って御覧になると、弟子たちは眠っていたので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」更に、向こうへ行って、同じ言葉で祈られた。再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠かったのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかった。イエスは三度目に戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」